歴史災害探索

まちあるきガイド　その３

東岡崎～岡崎市役所～矢作橋編

まちあるきの前に岡崎を学ぼう！　～矢作川の歴史と水害～

矢作川の歴史

矢作川は、15 世紀中頃まで自然の流れのまま流下していたため、いくつもの流れがありましたが、岡崎城の築城にあわせ堤防を築き、流れを固定させました。大規模な治水対策が行われたのは 1590 年代で、時の岡崎城主である田中吉政が築堤工事を行いました。工事は、一部の川筋を変えるなど大規模なものとなり、それまで網状に乱流していた矢作川は徐々に一本化され、治水のみならず農地拡大にもつながりました。

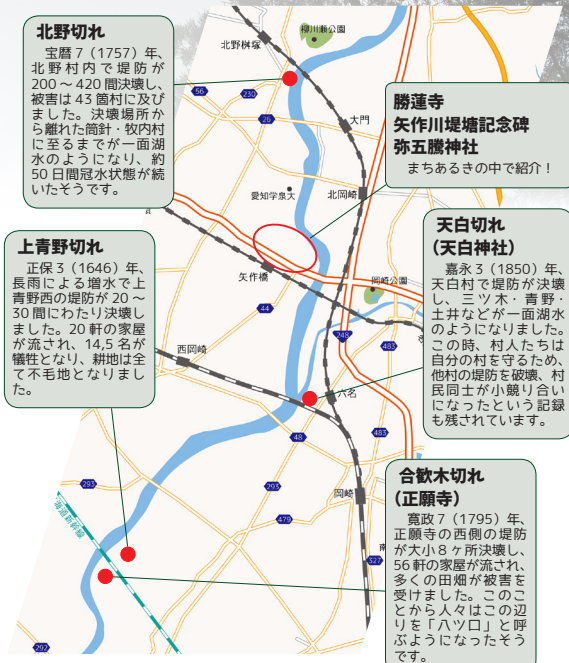
しかし、下流部は八ツ面山（現在の西尾市）にさえぎられ、流れが大きく変わる地点は依然として洪水が多発していたため、さらなる治水対策が求められ、矢作新川（現在の矢作川の川道）の開削が計画されます。工事は、1605 年に徳川家康が家臣に命じて行ったとされており、今の矢作古川から川を付け替え、現在の矢作川の川筋が概ね完成しました。

一説には、矢作川下流部で領土を築いていた吉良家に、矢作川の恵みを渡さないよう、家康が策略として流れを変えたとの文献もありますが、この河川改修で更なる治水対策がなされました。

元禄十四年三河国絵図（愛知県図書館蔵）

矢作川の年表　（青字は水害）

大宝元年（701）	水害（三河国における最古の記録）
康正元年（1452）	岡崎城築城の際に矢作川の西堤が作られる
天文 13 年（1544）	洪水により三河各地で大きな被害が出る
天正 13 年（1586）	天正地震（岡崎の震度 5 ～ 6）岡崎城が大破
慶長 9 年（1604）	矢作新川（現矢作川）の開削工事が始まる 翌年、矢作古川から川を付け替え、現在の川筋が概ね出来上がる
正保 3 年（1646）	【上青野切れ☞】上青野村で堤防が決壊し約 15 名の死者が出る
宝永 4 年（1707）	宝永地震（南海トラフ地震、岡崎の震度 5）
宝暦 7 年（1757）	【北野切れ☞】挙母村、中島村、北野村で決壊が相次ぐ
明和 4 年（1767）	猿投山で山崩れ、矢作川両岸で決壊が相次ぐ（p.13）
寛政元年（1789）	西蔵前村、八町村、合歓木村などで決壊
寛政 7 年（1795）	【合歓木切れ☞】合歓木村正願寺西方で大小八ヶ所決壊
文化元年（1804）	仁木、岩津、西蔵前村で延 400 間決壊
文政 11 年（1828）	青木、仁木、八町、上青野、矢作、天王堤などで決壊（p.15）
嘉永 3 年（1850）	【天白切れ☞】堤防が各所で決壊、死者多数
安政元年（1854）	安政東海地震（南海トラフ地震）により挙母地方の矢作川堤防が裂け割れる
明治 15 年（1882）	［久後（三嶋）切れ（乙川）］久後崎で 4 ～ 50 間程決壊（p.8）



北野切れ

宝暦 7（1757）年、北野村内で堤防が 200 ～ 420 間決壊し、被害は 43 箇村に及びました。決壊場所から離れた筒針・牧内村に至るまでが一面湖水のようになり、約 50 日間冠水状態が続いたそうです。

勝蓮寺
矢作川堤塘記念碑
弥五騰神社

まちあるきの中で紹介！

上青野切れ

正保 3（1646）年、長雨による増水で上青野西の堤防が 20 ～ 30 間にわたり決壊しました。20 軒の家屋が流され、14,5 名が犠牲となり、耕地は全て不毛地となりました。

天白切れ（天白神社）

嘉永 3（1850）年、天白村で堤防が決壊し、三ツ木・青野・土井などが一面湖水のようになりました。この時、村人たちは自分の村を守るため、他村の堤防を破壊、村民同士が小競り合いになったという記録も残されています。

合歓木切れ（正願寺）

寛政 7（1795）年、正願寺の西側の堤防が大小 8 ヶ所決壊し、56 軒の家屋が流され、多くの田畑が被害を受けました。このことから人々はこの辺りを「八ツ口」と呼ぶようになったそうです。

歴史災害探索まちあるきルート

岡崎

道のりと所要時間

まちあるき距離：約 5.5km

まちあるき時間：2 時間 30 分から 3 時間

⑦弥五騰神社（p.15）

文政１１年の文政の大洪水による犠牲者追悼の碑があります。

⑥矢作川堤塘記念碑（p.14）

明治２２年の矢作川堤防工事の完成を記念して建てた碑があります。

名鉄矢作橋駅 ゴール！

③岡崎公園（p.10）

徳川家康公生誕の城。桜や藤の名所としても有名です。

①岡崎市役所（p.6）

防災展示コーナーで防災に関する基礎知識を学ぶことができます。

⑤勝蓮寺（p.13）

明和４年の洪水による犠牲者追悼の碑があります。

④八丁蔵通り（p.12）

八丁味噌蔵の建ち並ぶ通り。朝ドラのロケ地にもなりました。

②久後崎（p.8）

明治 15 年の水害による犠牲者追悼の碑とその後の治水工事の様子を伝える碑を見ることができます。

名鉄東岡崎駅 スタート！

今日のまちあるきの基礎知識

東海道の宿場町　岡崎

家康公生誕の城、岡崎城の城下町にある岡崎宿は、東海道 38 番目の宿場町として繁栄しました。特に矢作橋は、当時日本最大級の橋で、豊臣秀吉の幼年時代の逸話が残っているなど、名所として知られています。当時の様子は、歌川広重や葛飾北斎の浮世絵に残されています。

歌川広重 東海道五十三次之内岡崎（郵政博物館蔵）

矢作川

矢作川の「矢作」は、古代の人々がこの地で「矢を矧(は)いだ（矢を作っていた）」ことに由来すると言われています。伝説によると、日本武尊(やまとたけるのみこと)が東夷征伐の際、この地に生えている竹で矢を作らせ、戦いに勝利したそうです。その竹の一部と伝わるものが矢作神社境内に残されています。

源流は長野県の大川入山にあり、流長 117km、流域面積は約 1,830km^2 です。近世以降は岡崎藩・挙母藩・西尾藩などが流域に成立・発展し、現在の岡崎市・豊田市・西尾市の原型となりました。現在も西三河の農業・産業の発展に重要な役割を果たしています。

日本武尊像（矢作神社）

岡崎市役所

岡崎市は徳川家康公生誕の城、岡崎城の城下町として発展を遂げてきました。岡崎市役所の庁舎は大正５（1916）年の市制施行当初、籠田町（現在の康生通南３丁目）にあり、昭和 15（1940）年、現在地である十王町に移転しました。

移転当初の市庁舎の本館は木造２階建て、中央に塔屋を設け、上層は展望室、下層は防空本部となっていました。その後、岡崎空襲では焼失を免れ、昭和 46 年 10 月には新庁舎（写真、現在の西庁舎）が完成しました（現在は耐震補強済）。さらに平成 19 年７月には東庁舎が完成、現在に至ります。

photo1

東岡崎駅の北口を右手方向に進み、突き当たりで左折し、通路（photo1）を進みます。右手に交番が見えます。

photo2

通りまで進んだら右折し、すぐの信号で左折します。脇の建物の１階は中京テレビです。（photo2）

photo3

乙川の遊歩道まで歩き、遊歩道を右方向に進みます（photo3）。しばらく歩くと吹矢橋が見えます。渡ると正面に市役所が見えてきます。

防災展示コーナー

岡崎市役所の東庁舎１階、入口すぐのところにある防災展示コーナーは、岡崎市役所と名古屋大学の共同研究でできた最新の展示で、「生活の中に防災を」をテーマとし、防災に関する知識や備えの必要性を、見て・触って学ぶことができます。

映像シアター

地震と豪雨の災害を、200 インチの大画面と照明効果、音響による臨場感ある映像で放映しています。

「大地震～日頃の備えが問われるとき」
「豪雨～命を守った決断」（それぞれ約７分）

今昔マップ

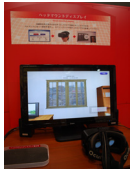
明治時代や昭和初期の「旧版地図」と、被害想定を合わせて表示することにより、自分の住んでいる場所が昔どのような土地利用をされていたかを把握し、災害リスクを自己判断することができます。

プロジェクションマッピング

岡崎市の航空写真に震度、液状化危険度、浸水想定区域を重ね合わせて見ることで、地域の災害特性を知ることができます。

ヘッドマウントディスプレイ

３Ｄメガネを装着し、地震が起きた時のリビングやオフィスの状況をリアルに体験することができます。



利用時間　午前８時 30 分～午後５時 15 分　**入場料**　無料
休日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始　**見学時間**　約 30 分
※団体でご利用される場合はあらかじめご連絡下さい
（問合先）岡崎市役所防災危機管理課　Tel:0564-23-6533

久後崎（久後切れの石碑）

久後崎の地は古くから「流れ久後」と呼ばれ、人々は家を建てることを避けてきました。また、ここは岡崎城の対岸に位置しており、城を水害から守るため堤防が低く設定された、「越流堤（乗越堤）」でした。明治 15（1882）年の豪雨で、堤防が決壊し 43 名の犠牲者が出ます。これを機に堤防は本格的な改修が行われ、明治 18 年に完成します。「三郡輪中治水碑」（写真右）は当時の治水工事の様子を漢文で今に伝えています。また、隣には 43 名の犠牲者の名前が記された「溺死者追悼碑」（写真左）が建てられています。

photo1

市役所から国道１号線に戻り、交差点を右折してすぐ、川のほうへ入る細い道があります（photo1）。しばらく川沿いの道を進みます。（桜の季節は河原に降りてもいいですね。）

photo2

橋を１つ過ぎ、２つ目の殿橋（photo2）を渡ります。

photo3

橋を渡ったら右折します（photo3）。左手に注意しながらしばらく歩くと、２つの石碑が見えてきます。

乙川リバーフロント計画

岡崎市の玄関口である、東岡崎駅のある乙川左岸地区と、岡崎公園や中心市街地など乙川右岸地区を繋ぐ人道橋を架けるなど、この地域一帯を整備する計画です。

セントラルアベニューは全長約 600m、幅約 16m で、橋上でのイベントなどの舞台として利活用が期待されます。また、中央緑道には徳川四天王（酒井忠次、本多忠勝、榊原康政、井伊直政）の像が設置される予定となっており、東岡崎駅から岡崎城に向かう際は、必須ルートになりそうです。さらに、計画には籠田公園の再整備も盛り込まれており、岡崎城の堀をイメージした親水施設や二十七曲りを意識した園路を配置するなど、潤いと憩いの空間が創出されます。

乙川河川敷も、遊歩道やランニングコースが整備される予定ですので、家族で散歩をしながら、あるいは休日にジョギングをしながら、乙川一帯の景観と人道橋でのイベントなどを楽しんではいかがでしょうか。

岡崎公園

岡崎公園は、徳川家康公生誕の城である岡崎城の城跡に造られた歴史と文化の公園です。現在の天守閣は昭和34年に復元されたもので、内部は江戸時代の岡崎城を紹介する歴史資料館となっています。公園内には家康公の産湯に使った水を汲んだ「産湯の井戸」や、甲冑の試着体験や家康公と三河武士の歴史が学べる「三河武士のやかた家康館」など様々な施設があり、季節ごとにイベントが行われています。また、桜や藤の名所として知られ、多くの花見客で賑わいます。

堤防沿いの道を挟んで反対側に河原へ降りる小道があります（photo1）。

小道を下り、河原に出ると乙川を渡る人道橋があります（photo2）。これを渡ります。

対岸の正面一帯が岡崎公園です。公園のほうへ進むと赤い神橋が見えてきます（photo3）。これを渡り、岡崎公園へ入っていきます。

徳川家康と岡崎

江戸幕府を開いた徳川家康は、天文11（1542）年、松平広忠の子として岡崎城に生まれました。幼少期を織田氏、今川氏の人質として過ごし、桶狭間の戦いの後、岡崎城に復帰、独立し、一向一揆との戦いなどを経て、三河一国を治めました。

その後、拠点を岡崎から浜松へ移し、武田氏滅亡後は三河・遠江・駿河・信濃・甲斐を治める大名となりますが、豊臣秀吉の命により関東に転封となります。慶長5（1600）年、関ヶ原の戦いに勝利、同8（1603）年に征夷大将軍となって江戸に幕府を開き、260年以上にわたる太平の世の礎を築きました。

家康は天下を統一した政治・軍事的手腕のみならず、都市づくりにも手腕を発揮しました。2ページにある矢作新川の開削工事だけでなく、当時はほぼ未開の地であった江戸を、利根川などの治水工事や城下町の拡張工事を経て、世界有数の大都市にまで成長させました。

徳川家康像
（三河武士のやかた家康館蔵）

産湯の井戸（岡崎公園）

岡崎公園内案内図（右側が北）

また、家康は街道の整備や貨幣の鋳造、諸外国との交易など、金融・経済振興政策にも取り組み、多くの利益を得ていました。一方でかなりの倹約家としても知られ、城の女中がお新香をたくさん食べないよう、わざと塩辛くしていたという逸話もあります。そんな家康は莫大な資産を残しており、死後に御三家（尾張・紀伊・水戸）に分配された遺産は現在の貨幣価値でおよそ二千億円と言われています。

八丁蔵通り

岡崎市の名産品「八丁味噌」の名前は、岡崎城から西へ八丁（約870m）離れた八丁村（現在の八帖町）で製造されていたことに由来します。現在「八丁味噌」を製造している味噌蔵は「まるや」と「カクキュー」の２軒のみで、ともに江戸時代初期頃から製造を行っている老舗です。大豆と塩とごく少量の水のみを使い、二夏二冬人の手を入れずに熟成させるというこだわりの製法を守り続けています。味噌蔵の建ち並ぶ通りは「八丁蔵通り」と呼ばれ、2006年にはNHKの連続テレビ小説「純情きらり」のロケ地にもなりました。

photo1

公園内の産湯の井戸の裏の坂谷橋を渡り、正面の道（photo1）を西に進みます。

photo2

しばらく進むと細い道になり（photo2）、そのまま西に進みます。国道248号線に出ますので左折し、すぐの信号で右折します。

photo3

しばらく進むと高架をくぐります。左手にまるや、右手にカクキューが見えます。蔵通りはその先を右に曲がった通りです（photo3）。

勝蓮寺（しょうれんじ）

勝蓮寺は、家康の長男である信康との関係が深かったと言われ、信康の肖像画（岡崎市指定文化財）をはじめとした多くの遺品が残されています。ここに、明和４（1767）年７月13日の洪水による犠牲者の供養のための碑があります。「参河聡視録」には、「13日洪水、此時渡刈堤、川端堤、大門堤、矢作川堤切込、八町村家居流屋敷水田に成る、松葉橋落、下肴町入角より板屋町まで町家分水入、此内流家数多、人牛馬多く死す」とあり、堤防が数ヶ所で決壊、広い範囲で浸水し家が流され、多くの人が亡くなったと伝えられています。

photo1

蔵通りを抜けて国道１号線に突き当たると、左手に地下道があります（photo1）。これで１号線をくぐります。

photo2

くぐったら矢作橋のほうに進み、橋を渡ります。右手に出合之像があり、像の前の道を進むと左にカーブします（photo2）。曲がり切ってさらに左折します。

photo3

左折してすぐに右に入る道が見えますので（photo3）、右折すると右手が勝蓮寺です。

矢作川堤塘（ていとう）記念碑

北野（現在の岡崎市）から藤井（現在の安城市）までの矢作川堤８８,２００間（約 15km）の工事完成を記念して明治 22（1889）年に建てられたものです。円筒形の題碑(写真右）と板碑（写真左）からなり、板碑には工事に至るまでの経緯と工事中の出来事が書かれていますが、上部が欠損してしまって、碑文のすべてを読むことはできません。

photo1

photo2

photo3

勝蓮寺を左に出て突き当たりを左折し、先ほどの道に戻ります。（photo1）

しばらく道なりに進むと左手に八幡社が見えてきます。（photo2）

八幡社を通り過ぎ少し進むと、右側の草地に矢作川堤塘記念碑が見えてきます（photo3）。手前には四角い「矢作川勝景之碑」も見られます。向かいは矢作神社です。

矢作神社

日本武尊が矢の材料にしたとされる「矢竹」や、建武２（1335）年に新田義貞が戦勝祈願を行った際に隠したという「うなり石」が祀られています。

弥五騰（やごとう）神社

文政期の矢作川では、文政５（1822）年の八町村内の大林寺領内での堤防破損、同８年の上青野村内本光寺西での 100 間にわたる決壊など、水害が相次ぎました。なかでも、同 11 年７月１日の洪水は「文政の大洪水」と呼ばれ、矢作川大曲り（矢作神社の北）の堤防が決壊し 75 軒の家が流され 14 名が犠牲となりました。左岸では仁木･磯部･八町･上青野、右岸では矢作の天王堤で決壊があり、矢作橋も損傷し、東海道が一時不通となっています。矢作町の旧東海道沿いにある弥五騰神社には、犠牲者の供養のために建てられた慰霊碑があります。

photo1

photo2

photo3

記念碑の向かい側の矢作神社の境内に入っていきます。（photo1）

坂を下り、左手の方に進むと道路に出る出口があります（photo2）。出て左に進みます。

突き当たりを右折し（photo3）、しばらく進むと右手に矢作東小学校があります。神社は小学校の手前です。

まちあるきお疲れ様でした。最寄りは矢作橋駅です。

おわりに

　岡崎市が位置する三河地域は、古くは御河と呼ばれていました。「御河」とは、矢作川を指しており、古くから矢作川の恩恵に預かってきたことが地域の名称からも推測することができます。ただ、矢作川は「暴れ川」という別の呼ばれ方もされており、昔の人々も治水対策に頭を悩ませてきた川でもあります。

　岡崎市には 46 本の川が流れており、それぞれ日常生活を支えてくれていますが、時として我々を襲ってくることがあります。

　まちあるきをする際は、日頃忘れがちな自然への感謝の気持ちと、いざという時をイメージしながら散策してみてはいかがでしょう。

さらに学びたい方は…

　岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」では、今回のまちあるきコース以外にも、矢作川の水害に関する歴史について調べることができます。また、りぶら１階にある「岡崎むかし館」では、岡崎市の礎を作った人物やまちの移り変わり、昭和初期の人々の生活などを写真や映像、実物の展示によって見ることができます。

　今回のまちあるきガイド作成にあたり、参考にした文献は下記のとおりです。

・「新編岡崎市史」（新編岡崎市史編集委員会）
・「六ツ美村誌」（六ツ美村是調査会）
・「矢作川　川と人の歴史」（岡崎市美術博物館）
・「矢作川」（愛知県豊田土木事務所）
・「碑は語る－岡崎平野の治水と農業」（渋谷　環）
・「三河・尾張　川の流れと歴史のあゆみ」
　（国土交通省中部地方整備局河川部河川計画課）

岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」

利用時間　午前９時～午後９時
休館日　原則毎週水曜日、年末年始
地図　p.4 の全体ルート図参照

歴史災害探索まちあるきガイドブックその３
－東岡崎～岡崎市役所～矢作橋編－

作成：減斎の会
　　名古屋大学減災連携研究センター
発行：岡崎市防災危機管理課
平成 29 年 2 月

まちあるきの感想や、ガイドに対するご意見などございましたら、
bosai@city.okazaki.lg.jp までお寄せください。